

1-3 キャリア科目

未来科学部では、学生が卒業後に社会的・職業的自立につながる就業力を育成するためのキャリア科目を各学年に展開しています。

- 1年次 フレッシュマンセミナー（前期） 東京電機大学で学ぶ（前期）
- 2年次 未来科学キャリアワークショップ（前期／後期）
- 3年次 未来科学プロジェクトA（前期／後期）
- 4年次 未来科学プロジェクトB（前期）

※2年次の未来科学キャリアワークショップは必修科目です。

※1年次科目は人間科学科目に、2～4年次科目は専門教育科目（学部キャリア科目）に担当しています。

1-4 単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基準
講義及び演習	15時間の授業をもって1単位
実験・実習・製図及び実技	30時間の授業をもって1単位
卒業研究等	学修の成果を考慮して単位数を定めています。

※必要な学修時間の計算例

授業形態		科目の単位数	必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間（週あたり）
講義・演習	半期科目 15時間で 1単位	2単位	45h×2単位 =90時間	15h×2単位 =30時間	(①90h-②30h)÷15週 ⇒4時間
実験・実習等	半期科目 30時間で 1単位	2単位	45h×2単位 =90時間	30h×2単位 =60時間	(①90h-②60h)÷15週 ⇒2時間

1単位は45時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

1-5 科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があり、「授業科目配当表」に記載されています。

区分	内容
必修科目	単位修得が義務づけられている科目。進級や卒業するためには必ず単位を修得しなければならない。
択一必修科目	指定の数科目のうちから1科目のみ必ず選択し、選択したものが必修となる科目。
選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。但し、各学科の「進級条件」「卒業条件」「履修モデル」等に留意すること。
自由科目	修得すれば単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目。

※ 他学部他学科科目については、「3-5 特別な履修登録」を参照してください。

1-6 配当学年

科目は、カリキュラム上、体系的に関連づけられており、学修が効果的に行われるよう、科目には開講される学年が予め定められています。従って、学生は自分の学年に配当された科目（再履修の場合は、自分の学年より下級学年次に配当された科目）を原則履修することになります。そのため、上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません（学年配当の原則）。

上級学年次に配当された科目の履修については、各学科の指定によります。

	建築学科	情報メディア学科	味・味・味学科
履修の可否	原則履修を認めない	学科の定める条件を満たす場合履修を認める（自学科に配当された専門教育科目のみ）	学科の定める条件を満たす場合履修を認める（自学科に配当された専門教育科目のみ）
進級条件への算入（上級学年次配当科目）	—	現学年次の進級条件に算入	当該科目配当学年次の進級条件に算入

※上級学年次科目の履修方法等、詳細については掲示もしくは学科の指示に従ってください。

1-7 配当期

科目の開講される期間（配当期）により、次のように区分されます。

通 年 科 目	1年間30週にわたって授業が行われる科目
前 期 科 目	前期半年間15週にわたって授業が行われる科目
後 期 科 目	後期半年間15週にわたって授業が行われる科目
四半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目	1/4年間8週にわたって授業が行われる科目
集 中 科 目	夏季・冬季などの休業中の一定期間に、集中的に授業が行われる科目。集中科目の時間割は決まり次第掲示で発表されます。

1-8 毎週授業時限数（コマ）

授業科目配当表上の時限（コマ）のことです。1とあれば1週間に1時限（1コマ=90分）開講していることを意味します。

2 授業について

2-1 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には、「学年」と「学期」という概念があります。

学 年：4月1日から翌年3月31日まで

学年は次の2学期に分けられます。

前学期（前期）：4月1日から9月上旬まで

後学期（後期）：9月上旬から3月31日まで

但し、必要に応じこの期間を変更することがありますので、その年の学事日程で確認してください。

また、授業日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。授業日数を確保するため、休日・祝祭日等に授業を行う日程を設ける場合があります。

2-2 時限と時間

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00 }	10:40 }	13:10 }	14:50 }	16:30 }	18:10 }	19:50 }
	10:30	12:10	14:40	16:20	18:00	19:40	21:20

※工学部、未来科学部（昼間学部）の正課授業は1限から5限、工学部第二部（夜間学部）の正課授業は5限から7限に実施されます。通常とは異なる時限に補講が行われ

る場合もあります。

※他キャンパスとの遠隔授業等においては、上記とは異なる時間で授業を行うことがあります。

2-3 時間割

(1) 時間割表

各科目は週単位で決められた「時間割」に従って行われます。

時間割は「UNIPA」で確認することができます。操作方法は、UNIPAの説明ページを参照してください。

(2) 時間割の変更

曜日・時限などに変更が生じた場合、掲示により周知します。

(3) 注意事項

授業を受ける際は、授業科目配当表、時間割表、シラバス、掲示をよく確認のうえ、間違いのないように受講してください。

2-4 担当教員

担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、本学の専属の教員ではありませんが、原則として担当科目がある日・時限は学内にいることになっています。担当教員に用事がある場合は、以下の方法で問い合わせてください。

常勤教員：教員室に直接行ってください。事前にメール等でアポイントをとることをおすすめします。教員室とメールアドレスについては「第15章 3未来科学部の教員一覧」を参照してください。

非常勤教員：講師室（2号館3階）へ行くか、シラバスに記載のメールアドレスに問い合わせてください。

上記以外の連絡方法はお知らせできません。また、取次ぎにも対応していませんので、確認したいことがある場合は、授業終了後に確認するなど、早めの対応を心がけてください。

2-5 クラス編成と授業ガイダンス

同一科目で複数のクラスがある場合、科目によっては受講クラスが指定される（クラス分けされる）ことがあります。特に英語科目や演習科目は複数のクラスが編成されますので、受講するクラス（担当教員や曜日など）を間違えないよう掲示やガイダンスでの指示を確認してください。

実験・実習・実技・英語等の科目においては、授業開始第一週に授業ガイダンスが行われる場合があります。日程等は掲示によりその都度周知します。授業ガイダンスに出席しないと、クラス編成の都合上、履修に支障が出る場合がありますので必ず出席してください。

新入生へ
最初に
修業内 部
修業内 着
共通 F A
F I
F R
履修案内
U N I P A
資格・免許
教職課程
事務取扱い
学籍・学費
学生生活
各種施設
就職・進学
学則 規程
沿 革
校歌・学歌
警 研 組 織
キ ャ ン パ ス 案内

2-6 休 講

次の場合、休講とします。休講は原則掲示にて周知します。

- (1) 授業担当教員にやむを得ない理由が生じた場合
- (2) 休講の掲示がなく、授業開始時間から 30 分を経過しても授業担当教員がやむを得ない理由で授業を開始できない場合（自然休講と呼びます）
- (3) 大学の行事を行う場合
- (4) 交通機関のストライキや自然災害等、不測の事態が生じた場合（「交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について」の項（p.11）参照）

2-7 補 講

授業回数が不足した場合や学修の到達目標を達成していないと教員が判断した場合など、必要に応じて補充の授業を行うことがあります。補講の有無は、原則掲示にて周知します。

2-8 出 欠 席

授業の出席確認には学生証が必要です（「第 2 章 4 出席」の項参照）。忌引、病気・怪我、課外活動などで、やむを得ず欠席した場合は、工学部・未来科学部事務部または工学部・未来科学部事務部ホームページで欠席届の用紙を入手し、必要事項を記入の上、診断書等の欠席を証明できる書類を添えて授業担当教員に提出・説明してください。欠席日数が 1 週間を超える場合は、工学部・未来科学部事務部に提出してください。

但し、公欠制度はありません。届出に対して授業担当教員が判断をします。

正当な理由がなく、無届けで、引き続き 3 ヶ月以上欠席した学生は除籍対象となります。また、授業への出席状態が悪く、履修を途中で放棄したと授業担当教員が判断したときは、成績が「-」（放棄）となります。

2-9 レポート

レポートなどの提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと評価を受けられないこととなりますので、指定事項(期限や提出場所など)は必ず厳守してください。

2 号館 3 階のレポート BOX に関しては、締切後の提出は受付できませんので注意してください。

実験レポートの提出先が実験室の場合は、直接、実験室へ問い合わせてください。

2-10 授業アンケート

授業をより良くするために「授業アンケート」を実施し、結果を公開しています。授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。但し、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにしてください。

アンケート結果は、工学部・未来科学部事務部のホームページ等で公開する予定です。

2-11 e-Campus 科目

東京電機大学の4学部（工学部・未来科学部・理工学部・情報環境学部）では、多彩な勉学機会を提供するため、各キャンパスをネットワークシステムで結び、遠隔授業を行っています。遠隔授業を行う科目は別途掲示で確認してください（開講しない場合もあります）。

※他学部他学科に担当されている科目の場合、他学部他学科科目の履修登録が必要です。

※授業時間は原則、授業を行っているキャンパスの時間帯で行われます。

授業時間帯はキャンパス毎に異なります。時間割の重複はできませんので、履修する際は実施の時間帯に注意して申請してください。

2-12 学習サポートセンター

大学での学修において、基礎学力は非常に重要です。学習サポートセンターでは、基礎学力の向上を支援しています。上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

教員構成 本学常勤教員・非常勤教員・学習サポートセンター指導員

対象科目 数学・物理・英語

実施形態 ①個別指導による学習支援

②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）

実施場所 学習サポートセンター 4号館3階 40313室

※各科目の詳細についてはUNIPAまたは本学のホームページを参照してください。

3 履修計画・履修登録

3-1 履修計画

本学部では、基礎から応用へと積み重ねて履修していくことができるように、授業科目を順序立てて各年次・学期に担当しています。

そのため下級年次で成績不良のまま上級年次へ進むと、留年や卒業延期になる可能性があります。

進級や卒業には一定の条件が定められていますので、4年間の学修について、自己責任と自己管理が重要であることを自覚し、次の点を考慮して履修計画を立ててください。

(1) 必要な資料を確認する

資料名	内容
学生要覧（本冊子）	「各学科の理念」「履修モデル」「授業科目配当表」「進級条件」「卒業条件」などの各種の決まりごとを確認する
時間割表（UNIPA）	授業の開講曜日・時限・担当教員・教室などを確認する
シラバス（UNIPA）	授業の内容、教科書、クラス分け・ガイダンス情報などを確認する
掲 示（UNIPA）	履修登録期間・クラス分け・ガイダンス情報などを確認する

(2) 注意点

- ①卒業までの履修計画を立て、各学期ごとに履修登録をする。
- ②履修モデル・授業科目配当表・シラバス・初回の授業ガイダンスを参考に履修登録をする。
- ③必修科目も、自分自身で履修登録をする。
- ④上級年次になってから単位不足に陥ることのないよう、余裕をもって履修登録をする（履修登録単位数の上限（24 単位 / 半期）に注意する）。
- ⑤進級条件、卒業条件を満たせるよう、単位修得状況に注意して履修登録をする。

3-2 履修制限

4 年間を通し計画的に履修し、内容を充分理解することを目的として、履修制限が設定されています。履修する際は、この履修制限を超えて履修登録することはできませんので、十分注意し、しっかり履修計画を立てるようにしてください。

- ①履修登録時に履修できる単位数は半期に 24 単位までです。
但し、自由科目、集中科目は履修制限には含みません。
- ②優秀な成績で各学期を終了した学生には、次学期に上限を超えて 4 単位の履修ができる制度があります。

履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準

次の両基準を満たす者に対して、半期 4 単位まで上限単位数を超えての履修を認める。
(1) 前学期に 20 単位以上の履修登録を行い 90% 以上の単位を修得していること。
(2) GPA が 3.1 以上であること。

3-3 履修登録

履修登録は、前期に前期科目・前前期科目・前後期科目・通年科目・集中科目を、後期に後期科目・後前期科目・後後期科目・集中科目を、それぞれ登録します。

履修登録の種類は、主に「UNIPA で申請する科目」「専用紙で申請する科目」などがありますが、具体的な方法や履修登録期間などの詳細は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

については、大学院入学後に手続きを行ってください。手続きの方法については掲示でお知らせします。

4 学力考査

単位を認定するための材料として学力考査が行われます。学力考査は、筆記試験（学期末・中間・毎回の授業内など）・レポート・平常点の評価などの方法があります。いずれの形態で学力考査を実施するかについては、「学力考査実施要領」にて案内します。「学力考査実施要領」は掲示にて発表します。

4-1 学力考査

(1) 受験資格

次の4つの条件を原則全て満たしていなければなりません。但し、休学期間中は学力考査を受けることはできません。

- ① その科目の履修登録をしていること。
- ② その科目に常時出席していること。
- ③ その学期までの学費を納入していること。
- ④ 通年科目で、前・後期の2回学力考査が行われる科目の後期学力考査を受験するには、前期学力考査を受験していること。

(2) 実施方法等

学力考査の実施方法は大きく3種類に分類できます。具体的には以下の通りです。

① 筆記試験

学力考査実施要領発表後、通常の授業実施日時または特定科目考査日に筆記試験を実施します。

授業によっては、プレゼンなど筆記試験に代わる学力考査を実施することもあります。実施する時期は以下の2つに分けられます。

【授業中実施】

通常の授業実施日時に各授業担当教員の裁量で実施します。

【特定科目考査日】

工学部・未来科学部で開講している「微分積分学および演習Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」、「物理学Ⅰ・Ⅱ」および教室を分割する必要があるため授業中に行えなかった科目を実施します。

② レポート

筆記試験の代わりにレポートの作成を学力考査として課します。提出先が「事務部レポートボックス」となっているものは2号館3階 工学部・未来科学部事務部の入り口前に設置のレポートボックスに提出してください。UNIPAやメールでの提出の場合は、提出後に再度、レポートが確実に添付されていたかを確認するようにしてください。

⑨ 携帯電話等の取り扱い

授業担当教員の許可がない限り、携帯電話等の外部との通信が可能な機器を使用することは認められていません。計算機や時計としての使用も認められていません。これらの機器は必ず電源を切ると共に、机に出さないでください。従わない場合には不正行為として扱われます。

4-2 追試験

急病など真にやむを得ない理由で学力考査を欠席した場合は、追試験が実施されることがあります。追試験を実施するかどうかは授業担当教員に任されており、追試験願を提出しても追試験が実施されるとは限りません。できる限り指定された日の学力考査を受けてください。追試験を希望する場合は所定の手続きが必要になります。

(1) 追試験願の提出が認められる理由

次の4つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

- ① 本人の病気のため受験が全く不可能な場合（医師の診断書）。
- ② 2親等以内の親族の危篤・死亡の場合（証明する書類）。
- ③ 交通機関停止等により登校が不可能な場合（遅延証明書）。
- ④ その他、本人の責任でない真にやむを得ない事情がある場合（理由書）。

学力考査時間割の見間違い、寝坊などはやむを得ない理由とは認められません。ただし、就職試験のため学力考査を受けられなかった4年次生は、学科長に相談してください。

(2) 手続き

学力考査の受験資格（前記）を満たしており、上記の追試験願を提出できる理由に該当する者は、学力考査終了日の翌日から数えて3日以内（休日を除く）に、上記の証明書類を添えた追試験願を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。詳細なスケジュールや実施の可否は掲示でお知らせします。追試験を申請する場合は、1科目につき500円が必要です。実施の可否にかかわらず返金はありません。

(3) 追試験受験上の心得

追試験受験上の心得は学力考査受験上の心得（P.75）に準じます。

4-3 中間考査

学期の途中で授業担当教員が随時行う学力考査です。

中間考査受験上の心得は学力考査受験上の心得（P.75）に準じます。

5 成績

授業担当教員が採点し、60点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の修了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

5-1 成績評価基準

評点は、下記の評価におきかえられ UNIPA の成績通知画面・成績証明書などに表されま
す。

評価		評点・摘要		成績評価基準
成績証明書用	成績通知用			
S	S	90～100点	合格 (単位修得)	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に 応用できる水準にあり、より高度な内容に進む ことができる。
A	A	80～89点		講義・実験・実習内容を理解し、応用できる 水準にあり、より高度な内容に進むことができ る。
B	B	70～79点		講義・実験・実習内容を知識として身につけ、 部分的ではあるが応用できる水準にある。しか し、より高度な内容に進むためには、自己学 習をしておくことが望ましい。
C	C	60～69点		シラバスに記載されている達成目標の最低水 準に達している。しかし、習得した知識を応 用し、より高度な内容に進むためには、十分 な自己学習を要する。
RN RS RA RB RC	RN RS RA RB RC	認定(※1) (資格取得・学 等の単位を認 定した場合)		
	D	0～59点	不合格 (単位未修得)	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
	—	放棄(※2)		学習を放棄したとみなされた。
※	*	履修中(現在履修中である状態)		

(※1) 評価「RN」は GPA 算出の計算式に算入されませんが、評価「RS～RC」は計
算式に算入されます。詳細は「5-3 成績順位」の項を参照してください。

(※2) 履修登録した授業科目を受験しなかった場合や、通常の授業への出席状態が悪く
授業担当教員が履修を途中で放棄したと判断した場合は、「—」放棄となります。

5-2 成績の通知

前期の成績通知は9月上旬に、後期の成績通知は3月上旬に UNIPA で発表します。
事前または同時期に学生アドバイザーとの面談や学科ガイダンスが行われる場合がありま
すので、日程を掲示にて確認してください。

5-3 成績順位

成績順位の算出には、GPA (Grade Point Average) を用いています。

GPA とは、科目を履修して最終的に与えられた S・A・B・C・D・－・RS・RA・RB・RC の評価 (Grade) に 4～0 のポイント (Point) を配当し、それに単位数を掛け、取得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値 (Average) です。

そのポイントと計算式は以下のとおりで、GPA の最高値は “4” となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

$$GPA = (\text{単位加重 GP の総和}) \div (\text{履修登録単位の総和})$$

※単位加重 GP の総和＝

(S・RS 評価の単位数) × 4 + (A・RA 評価の単位数) × 3 + (B・RB 評価の単位数) × 2 + (C・RC 評価の単位数) × 1

※単位加重 GP (Grade Point) とは、取得した各科目の評価 (S・A・B・C・D・－・RS・RA・RB・RC) に次の各科目の評価を指数化するグレードポイントを掛けた数値です。

ポイント	評価	評点 (100 点法)
4	S	90～100
3	A	80～89
2	B	70～79
1	C	60～69
0	D	0～59
	－	放棄
4	RS	資格取得等による単位認定
3	RA	
2	RB	
1	RC	

- ・ 総和には自由科目及び RN 評価の科目を含まない。
 - ・ 履修登録単位の総和に、履修中の単位は含まれない。
 - ・ 履修登録単位の総和は、成績通知に記載の科目を対象とする。
 - ・ GPA の値は小数点第 4 位を四捨五入した値とする。
 - ・ 用途
学部内における判定等 (早期卒業、履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準、その他)
- ※ D 評価科目及び放棄科目は 0 ポイントとなるため、放棄しない計画的な履修が結果的に GPA を上げることとなります。

5-4 単位認定

(1) 入学前に修得した単位の認定

大学または短期大学において本学部に入學する前に修得した授業科目の単位 (科目等履修生によって修得した単位を含む) のうち教授会が教育上有益と認めたものは、入学後、

本学部において修得したものとして（編入学・転入学等の場合を除く）60単位を限度に単位を認定されることがあります。

編入学者および転学部・転学科者が既修得単位を本学部における単位として認定を希望するときは、掲示により指定された期日までに、単位認定願を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。その中から、本学部所定の基準に対応する科目について単位認定を行います。

認定科目は、「RS・RA・RB・RC・RN」で表示されます。但し、他大学で修得した単位は、教育職員免許状を取得しようとするとき「教科に関する科目」の単位には20単位までしか算入されません（何ら教職課程認定を受けていない大学・短期大学から編入学した学生）ので、認定を希望しない者はその旨を工学部・未来科学部事務部へ申し出てください。

(2) 資格取得による単位の認定

未来科学部では特定の資格取得者に対して所属学科の科目の単位を認定する場合があります。詳細は各学科の「履修モデル」の項を参照してください。

6 卒業までの学修

自己の進路と学修の進め方については、学科で実施する履修のガイダンスに必ず出席し、その内容を十分理解して学修に励み、間違いなく所期の目的を達成するようにしてください。また、高等学校までと異なり、自己責任と自己管理が一層重要になってきていることを自覚し学修してください。

原則として以下の条件を満たした場合、上級学年次へ進級することとなります。

- ① 必要な学費およびその他の費用を納入していること。
- ② 同一学年に合算して12ヶ月以上在学していること。ただし、休学期間は在学期間に含まれない。
- ③ 上級学年次に進級するための条件がある場合は、その条件を満たしていること（詳細は、「7 進級と留年」の項を参照してください）。

※ 3月の判定時に休学中の者も、①、②、③を満たしていれば上級学年次へ進級することになります。

7 進級と留年

同一学年に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に1年次から2年次および3年次から4年次に進級する際に進級制度があります。なお、進級判定時に休学中の者も対象となります。留年もしくは卒業延期となった場合も、入学した年度のカリキュラム（進級・卒業条件を含む）が適用され、留年により変更しません。

なお、転学部・編入学・転学科・再入学者等は、正規に進級してきた学年（1年次の場合は新入生）と同一のカリキュラムが適用されます。

同一学年に通算して在学できる期間は4年です。進級できずに4年を超える場合は除籍となります。

進級条件は以下のとおりです。履修の際にはこれらの条件もしっかりと把握し履修登録するようにしてください。

7-1 進級判定時期

- ・1年次から2年次へ進級するとき。
- ・3年次から4年次へ進級するとき。

7-2 1年次から2年次への進級条件

建築学科	1年次終了時に28単位以上修得していること (自由科目は含まない)。
情報メディア学科	1年次終了時に24単位以上修得していること (自由科目は含まない)。
ロボット・メカトロニクス学科	1年次終了時に30単位以上修得していること (自由科目は含まない)。

7-3 2年次から3年次への進級

2年次から3年次への成績による進級条件はありません（ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります）。

成績による進級条件がない場合であっても、後記の3年次から4年次への進級条件を満たすように履修計画をたて、確実に学修を進める必要があります。

8 卒業

8-1 卒業条件

4年次生に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に卒業判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。

なお、本学部を卒業するためには、以下の全ての条件を満たすことが必要です。

【卒業条件】

- ① 卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。
- ② 自分の所属する学科に配当されている必修科目の単位の全部を修得していること。※1※2
- ③ 合計4年以上（8年以内）在学していること。※3
- ④ 卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
- ⑤ 卒業判定時に休学していないこと。

※1 建築学科では、必修科目の他に選択科目の「特別研究」、「特別設計」の両方またはいずれかを履修し、修得する必要があることに注意してください。

※2 情報メディア学科では、2ユニットの修了が「卒業研究A」の合格必要条件となっていることに注意してください。詳しくは学科の「履修モデル」の項を参照してください。

※3 在学期間が4年未満での卒業については「早期卒業」の項を参照してください。

8-2 区分別卒業所要単位数

	区分	単位数	
		建築学科	情報メディア学科 ロボット・メカトロニクス学科
共通教育科目	人間科学科目 スキル・キャリア コミュニケーション スポーツ・健康 人間理解 社会理解 異文化理解 技術者教養	16 単位 （「技術者教養」科目 2 単位を含む）	
	英語科目	6 単位	
専門教育科目	基礎共通科目 専門科目 学部キャリア科目	96 単位	88 単位
	任意に選択し、修得した科目	10 単位	14 単位
	合計	128 単位	124 単位

※自由科目は上記「卒業所要単位」に含まれません。

新入生へ
最初に
修業内
修業内
修業内
修業内
共通
FA
FI
FR
履修案内
UNIPA
資格・免許
教職課程
事務取扱い
学籍・学費
学生生活
各種施設
就職・進学
学則規程
沿革
校歌・学歌
警 研 究 組 織
キ ャ ン パ ス 内

特色ある教育を推進するために、卒業所要単位の中に学生の個性に合わせて選択できる科目が設けられています。これが、上記の表中の「任意に選択し、修得した科目」で、修得した場合は卒業所要単位に建築学科は 10 単位、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科は 14 単位まで算入できます。この「任意に選択し、修得した科目」とは次の科目をいいます。

人間科学科目から 16 単位、英語科目から 6 単位、基礎共通科目・専門科目・学部キャリア科目から建築学科は 96 単位、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科は 88 単位を超えて修得した単位。

また、他学部・他学科科目を履修し、単位修得した科目は表中のそれぞれの区分の選択科目の単位として取扱われます。(但し、卒業所要単位数として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等(学則)と合わせて 60 単位を超えることはできません。)

8-3 卒業見込証明書

進級条件を満たし 4 年次に進んだ学生に卒業見込証明書を発行します。

卒業見込証明書は 4 月上旬より発行します。卒業見込証明書発行日については、掲示にて周知します。

※休学期間中は卒業見込証明書は発行されません。必要に応じ、学科に相談してください。

8-4 学位記

本学部を卒業すると、**学士(工学)**の学位が授与され、卒業時に学位記を授与します。本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。

一度発行した学位記は再発行しませんので、大切に保管してください。

8-5 卒業延期(4年次留年)

卒業判定において卒業要件を満たさなかった者は 4 年次に留年(卒業延期)となり、再び 4 年次をやり直すこととなります。再履修については、掲示やシラバスを参照し、間違いのないように注意してください。

なお、休学による場合を除き、通算して在学できる期間は 8 年です。卒業できずに 8 年を超える場合は除籍となります。

8-6 3年間または3.5年間での卒業(早期卒業)

大学院への進学を前提としているきわめて成績優秀な学生は、以下の条件により 3 年間もしくは 3.5 年間の在学期間で卒業することができます。希望する場合は、学科長に相談してください。

ただし、建築学科は 3 年間での卒業のみとなります。

また、3 年次編入学者は早期卒業の対象となりません。

(1) 早期卒業着手条件

早期卒業に着手するためには、以下の全ての条件を満たす必要があります。
ただし、対象となる科目には、自由科目および工学部第二部の科目は含めません。

学科	早期卒業着手条件
建築学科	① 2年次後期終了時に 94 単位以上修得していること。 ② 2年次後期終了時の GPA が 3.4 以上であること。
情報メディア学科	● 3年間での卒業の場合 ① 2年次後期終了時に 86 単位以上修得していること。 ② 2年次後期終了時の GPA が 3.4 以上であること。 ● 3.5年間で卒業の場合 ① 3年次前期終了時に 90 単位以上修得していること。 ② 3年次前期終了時の GPA が 3.3 以上であること。
ロボット・メカトロニクス学科	2年次後期終了時（3年間での卒業の場合）もしくは 3年次前期終了時（3.5年間で卒業の場合）の GPA が 3.2 以上であること。

(2) 早期卒業条件

3年間または3.5年間の在学期間で卒業するためには以下の全ての条件を満たす必要があります。ただし、以下の対象となる科目には、自由科目および工学部第二部の科目は含めません。

- ① 本人が3年次後期終了時もしくは4年次前期終了時（建築学科を除く）に卒業することを希望していること。ただし、大学院進学を前提とする。
- ② 在学期間が3年以上の学生であること。
- ③ 各学科に配当された必修科目の単位を全て修得していること。
- ④ 各学科が定める卒業所要単位数以上を修得済みであること。
- ⑤ 3年次から4年次への進級条件を満たしていること。
- ⑥ 学科長および学部長が早期卒業に相応しいと判断した者。
- ⑦ 各学科が定める以下の条件を満たしていること。

●各学科が定める早期卒業のための卒業条件

学科	早期卒業条件
建築学科	① 3年次後期終了時の GPA が 3.4 以上であること。 ② 特別研究、特別設計のいずれかの単位を修得していること。
情報メディア学科	● 3年間での卒業の場合 ① 3年次後期終了時の GPA が 3.4 以上であること。 ② 卒業研究 B の単位を修得していること。 ● 3.5年間で卒業の場合 ① 4年次前期終了時の GPA が 3.3 以上であること。 ② 卒業研究 B の単位を修得していること。
ロボット・メカトロニクス学科	早期卒業判定時（3年次後期終了時および4年次前期終了時）の GPA が 3.4 以上であること。

9 前期末卒業

(卒業条件を満たさず卒業延期になった者対象)

9-1 前期末卒業の条件

4年次に合算して12ヶ月以上在学(休学期間は在学期間に含まない)した者を対象に前期末卒業判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業(9月10日付)となります。

(所定の卒業条件)

卒業条件は入学した年度に学生に提示している卒業条件を適用する。

9-2 前期末卒業の希望確認(意志確認)の手続きについて

(1) 年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した3月の成績通知後に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業判定」が説明されます。

⇒卒業延期者は、UNIPA【個人別情報】に表示されている連絡先に誤りがないか確認してください(後日、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用します)。

(2) 9月上旬の成績通知後に、「前期末卒業の対象者(前記の卒業条件を満たした者)」に対し、前期末卒業の希望確認(意志確認)を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

卒業時期の確認手続(時期:9月上旬)

対象学生への卒業時期の意志確認	前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーが、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業(9月10日付卒業)とするか、または、翌年3月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
卒業時期の確定	<p>対象学生への意志確認</p> <p>①対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない(連絡がつかない)場合 ⇒9月10日付で卒業となります。</p> <p>②対象学生より「翌年3月に卒業したい」旨の申請があった場合、定められた期間内に「翌年3月に卒業を希望する」旨の申請書(対象学生及び保証人の署名・捺印が必要)を学部長宛に提出する事により、翌年3月に卒業時期が変更となります。</p> <p>※後期分の学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定してください。</p>

9-3 前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません（用紙は工学部・未来科学部事務部にあります）。

（手続き）

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも1年間履修した単位未修得の科目について、前期の履修登録期間に「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を1科目につき1部ずつ工学部・未来科学部事務部に提出してください。

- ① 通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません（前年度に出席し、試験を受け不合格となった科目に限ります）。
- ② 半期（後期）科目はこの手続きの対象外です。

提出締切後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。修得できた科目の単位は、前期末卒業の可否にかかわらず修得科目として卒業所要単位数に算入されます。

9-4 前期末卒業のための卒業研究及びそれに類する科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ学科長・担当教員が許可する場合は、必要となる卒業研究及びそれに類する科目の履修が可能です。

ただし、卒業研究及びそれに類する科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講期で履修することとなり、本取扱いの対象外となります。

本取扱いの対象となるのは以下の科目です。

- ・建築学科：「特別研究・設計Ⅰ・Ⅱ」
 - ・ロボット・メカトロニクス学科：「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「メカトロニクス設計製作Ⅰ・Ⅱ」
- 履修登録については工学部・未来科学部事務部へ問い合わせてください。